

壁面塗膜剥離除去用柔軟剤

ハーガスNEO

国土交通省大臣官房庁営繕部監修
「平成28年度版建築改修工事監理指針」4章6節
「塗膜剥離剤工法」該当品

建築構造物改修工事
アスベスト含有塗膜除去工事対応品

環境配慮型 水系塗膜剥離剤



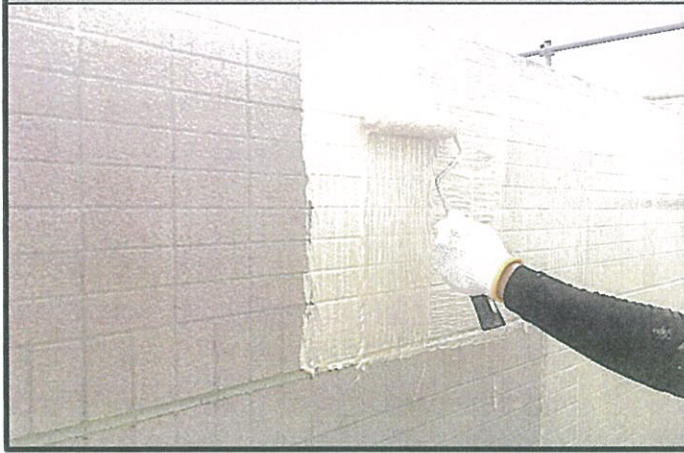
施工工程 (仕上り塗膜厚1mm程度以下)

※注)仕上り塗膜厚1mm程度以上の場合はこの限りではありません。

①着工前



②ハーガスNEOをループローラーで1.0kg/㎡以上塗布する。
※塗布量が規定量に満たない場合、



③ハーガスNEO塗布後、YGシートでラッピング。
砂骨ローラーで脱泡する。
2人がYGシートを両側で張り、もう1人が脱泡する。



④ラッピングしたらガムテープ(50mm幅)でYGシートの重ね部を全て貼り合わせる。
(雨水、風が入り込まないようにする為)



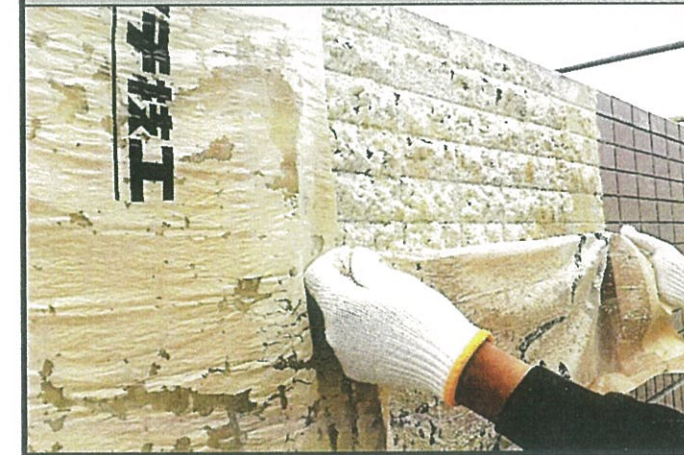
⑤ラッピング部の最上部に剥離シールを打つ(雨養生)
※そのまま72~168時間以上放置する。



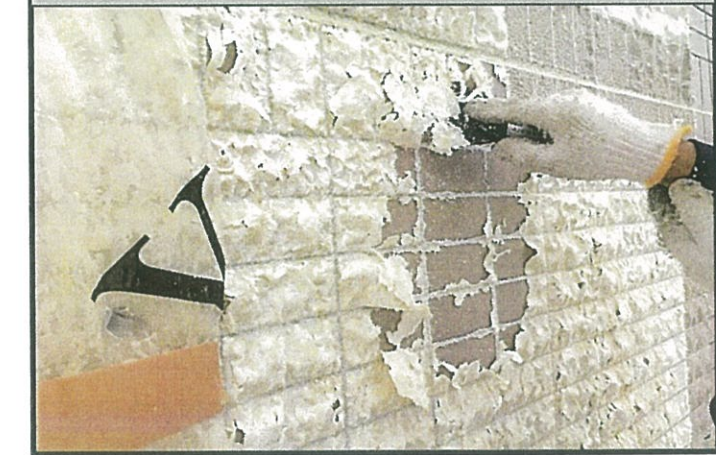
⑥放置後スモールウールローラーで力を入れてYGシート表面を転圧する。



⑦YGシートをゆっくり剥がしていく。
(旧塗膜の劣化度によってシートに転写されて一緒に剥がれる場合がある)



⑧その後、残存塗膜を※カーボンヘラで剥がしていく。
タイル面に限り金属ヘラは使用しない事。
(タイル表面が黒ずんでしまう為)



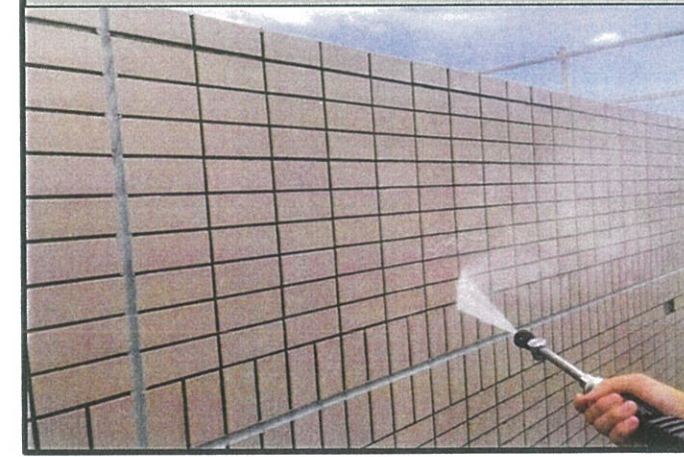
⑨目地の残存塗膜はカッターとワイヤーブラシで除去する。



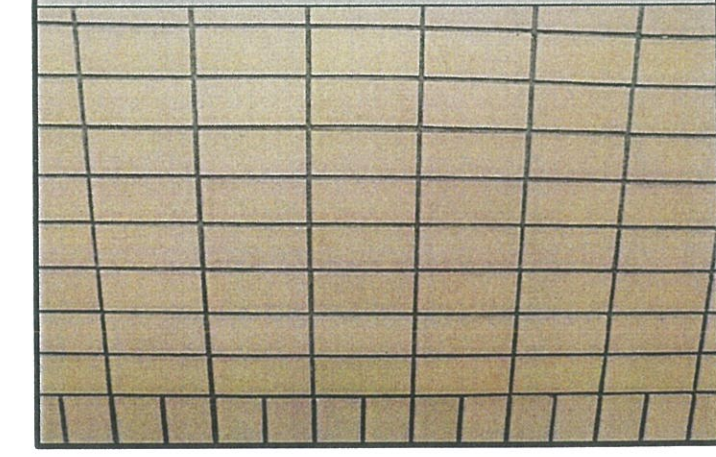
⑩除去作業で最終的に残ったプライマー表面をスコッチにて目粗しする。



⑪最後に高圧洗浄(圧力120kg~150kg)で全体の掃除を行い完了。



⑫剥離除去完了



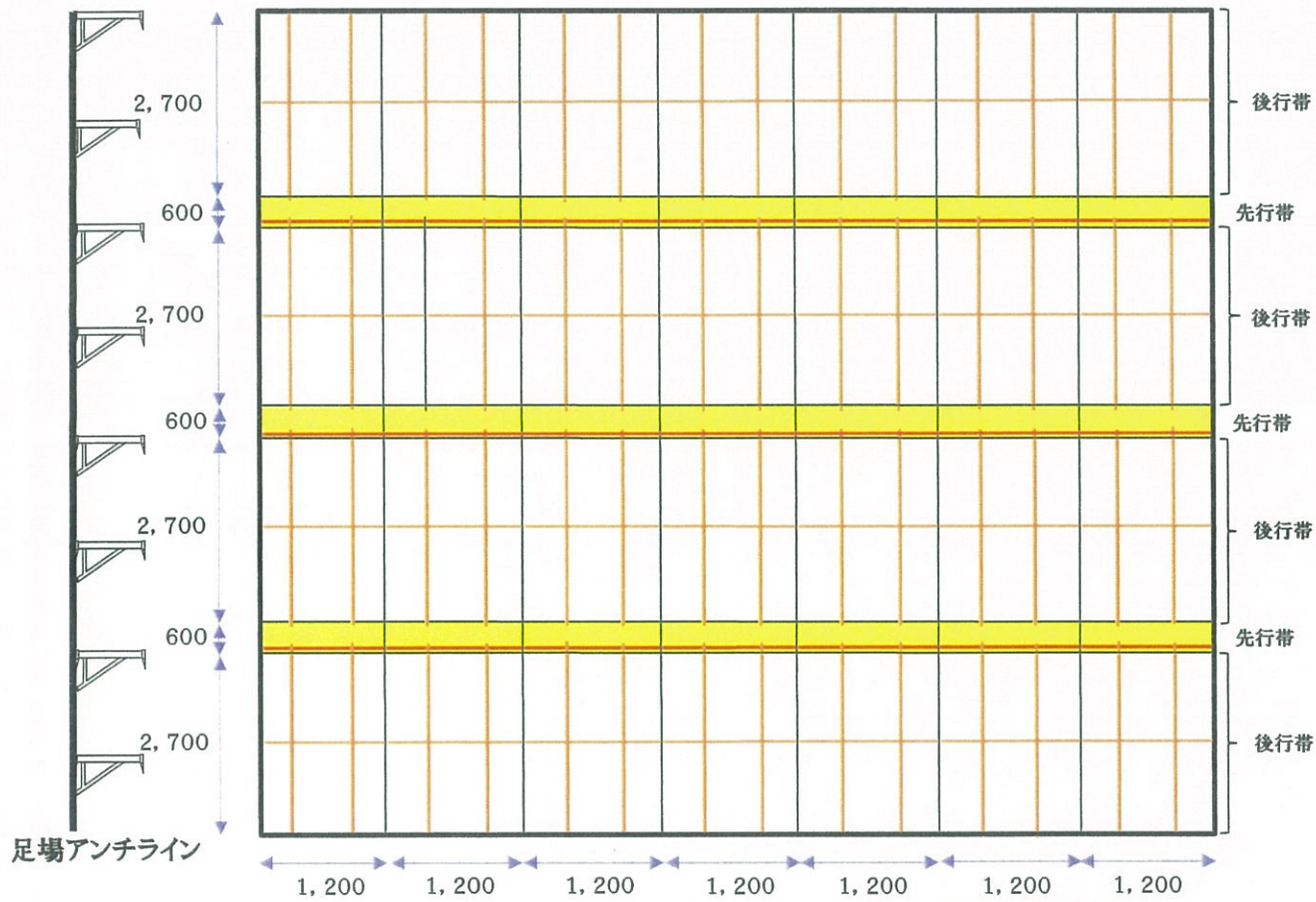
施工における補足事項①

☆剥離施工範囲については飛散防止対策として足場はメッシュシートで可能な限り養生して囲ってください。

☆ラップ詳細につきましては※下記詳細図を参考としてください。

☆強風時の施工は避けてください。※養生シート類飛散防止の為

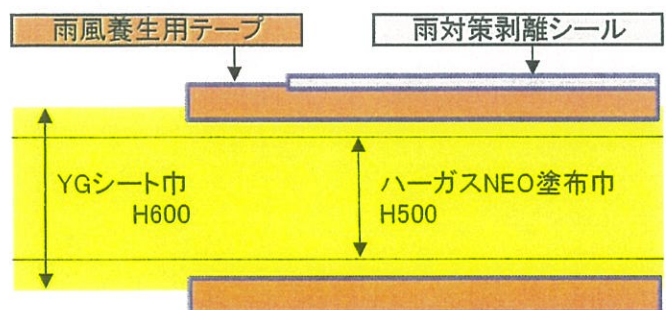
ラップ詳細図



- * 雨対策剥離シール
- * 雨風養生用テープ

事前に1,800巾のYGシートをシートカッターにて1,200巾と600巾に切り分けておく

先行帯拡大図



※後行帯処理も上記ラッピング処理方法同等に行う

先行帯現場施工映像



施工における補足事項②

☆高圧洗浄後残存塗膜(プライマーは除く)がまだある場合は霧吹き(ハンディタイプ)にて水湿しを行いスコッチにて除去する。(写真1)

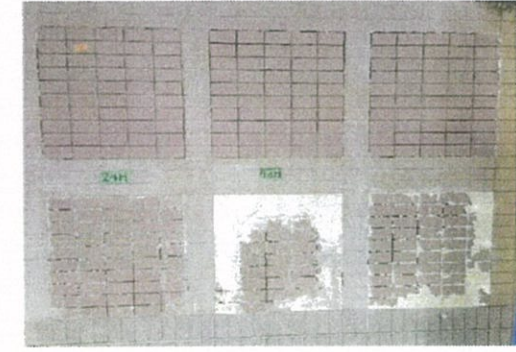
☆施工前には必ず現場にて試験施工を行ってください。(写真2)

(ハーガスNEOの塗布量、放置時間、剥離回数等を物件ごとに確認決定する為)

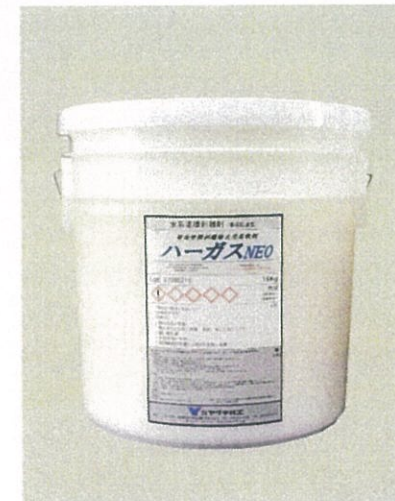
写真1



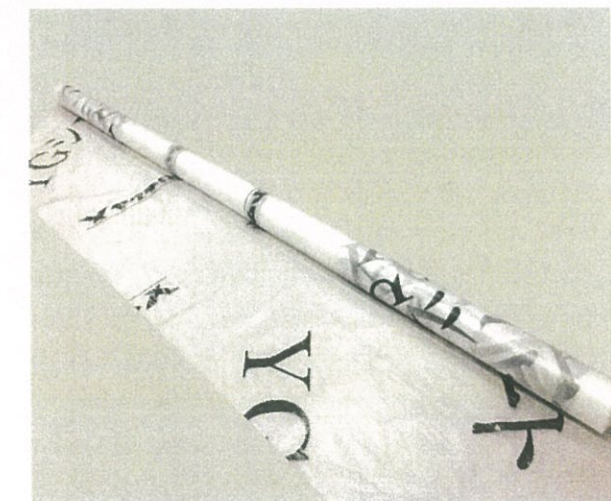
写真2



材料一覧



ハーガスNEO(16kg/プラスチック製ペール缶)

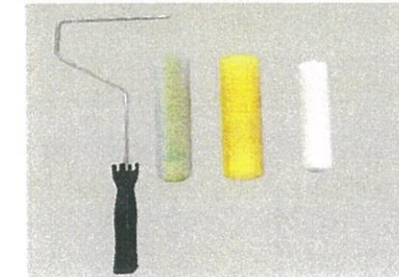


YGシート(1.8×100m/巻)

副資材一覧



・霧吹き(ハンディタイプ)



- ・ローラーハンドル
- ・ハーガスNEO塗布用(ループローラー)
- ・プラチナZ塗布用(ループローラー)
- ・プラチナZ塗布用(ループローラー)



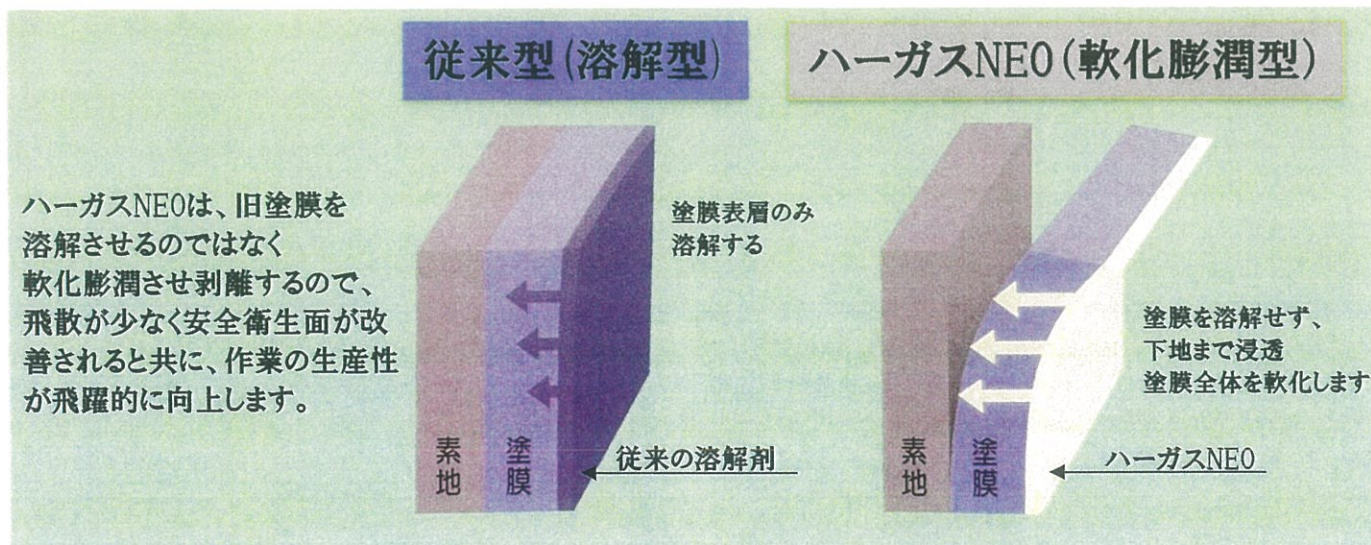
- ・ワイヤーブラシ
- ・スコッチ(100~120番)
- ・カーボンヘラ
- ・カッター
- ・足踏みシートカッター

施工工具類の洗浄はアセトン等をご利用ください。

従来型 塗膜剥離剤との比較

製品		従来の塗膜剥離剤	ハーガスNEO
項目	組成		
	主成分	塩素/ジクロロメタン	アルコール系有機溶剤/水
	PH	中性	中性
法令	PRTR法	第1種指定化学物質	非該当
	REACH規則 SVHC高懸念物質	非該当	非該当
	REACH規則 禁止・制限物質付属書	ジクロロメタン	非該当
	消防法	非危険物	非危険物
	有機溶剤中毒予防規則	第2種有機溶剤	非該当
	産業有機溶剤中毒予防規則	特別管理産業廃棄物	産業廃棄物
人体影響	皮膚への刺激	強い刺激がある	ほとんどない
作業性	塗膜への効果	溶解・半液体状態	湿潤シート状態
	塗膜廃棄物の回収・集積性	悪い	良い
	臭気	強い刺激臭	低臭

剥離メカニズムの違い



注意事項

無機系塗料は軟化しません。
その他軟化しにくい塗膜もありますので
ご注意ください。

【使用上の注意事項】

- 必ず使用前に事前調査を行い、適正条件を確認後、本施工を行って下さい。
・既存塗膜の種類、膜厚、塗膜構成、劣化程度、気象条件などにより施工条件が異なります。
・塗布量、添付後の放置時間、剥離作業結果を確認後見積及び本施工を行って下さい。
- 下記のような気象条件の場合、作業を行わないで下さい。
・気温(躯体表面温度)10℃以下の場合、塗膜が軟化しにくい為施工を行わないで下さい。
・湿度85%以上の場合、降雨、降雪時および強風時は施工を行わないで下さい。
- 施工面を清浄にして下さい。
・結露面、泥、苔、鳥糞、塵埃面の上には塗布しないで下さい。
- 塗膜剥離対象部以外の箇所は適切な養生を行い、飛散防止、防護対策を行って下さい。
・推奨養生材質: ポリエチレン、ポリエステル、ポリプロピレン、PET(Polyethylene terephthalate)、ナイロン
- 植木、植栽、芝生などの保護対策を行って下さい。
- ハーガスNEOは希釈せず使用前に電動攪拌機で十分攪拌してご使用下さい。
- 塗膜剥離作業時に使用する工具が入らない狭い部分などには塗布しないで下さい。
- 施工機器、器具の洗浄は、アセトン、IPA(イソプロピルアルコール)をご使用下さい。
・施工器具等の洗浄溶剤および洗浄水が流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 製品保管は密栓状態で直射日光の当たらない涼しい場所で保管して下さい。

【取り扱い上の注意事項】

- 使用前に必ず安全データシート(SDS)をお読み下さい。
- 安全管理は、関係法令を遵守し労働災害防止に努めて下さい。
- 火気類との接触を避けて下さい。
・万一の火災発生時に初期消火が行えるよう、消火器を設置して下さい。
・防爆タイプの機器を使用して下さい。(照明機器: 省電力充電式LED照明など)
- 厚生労働省「労働安全衛生法 有機溶剤中毒予防規則」に準じる作業保護具を着用して作業を行って下さい。
・作業中は換気を十分に行い、蒸発成分を吸引しないで下さい。
・特に塗布後の翌朝は作業場内に揮発成分が滞留している場合がある為十分注意して下さい。
- 有害物を含有する塗料のかき落とし作業時は、電動ファン付呼吸用保護具(防塵・防毒)または送気マスクおよび防護衣(日本工業規格「化学防護服規格番号 JIS T 8115 : 2010」)を着用して下さい。

【安全衛生上の注意事項】

- 使用前に必ず安全データシート(SDS)をお読み下さい。
- 下記の症状がある場合、すみやかに医師の診察を受けて下さい。
①皮膚に付着し体調に変化がある場合
②揮発成分を吸い込んで気分が悪くなり体調に変化がある場合
③目に入り体調に変化がある場合
④誤って飲み込んだ後、体調に変化がある場合
補足: ハーガスNEOは皮膚への刺激性が少ない為直ちに気付かない場合がある為注意して下さい。
皮膚に付着後放置した場合に起こりうる症状: 皮膚のかぶれ、あかみ、皮膚のめくれ
作業衣に付着した場合、洗剤で十分に洗い流して下さい。

【施工時・関係法令】

- 消防法: 非危険物
- 廃棄物処理法: 産業廃棄物
- 有機溶剤中毒予防規則: 非該当
- 労働安全衛生法
- 特定化学物質障害予防規則: 非該当
- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 下水道法 他

※本書に記載された内容は、製品改良の為に予告なく仕様を変更する場合があります。

剥離除去精度についての注意点

既存塗膜剥離除去完了後、旧プライマーが残存する場合があります。
 新規塗膜を再施工する場合はプライマーが残存していても構いません。
 剥離除去完了後、新規塗膜を再施工しない場合で残存プライマーを完全除去しなければならない場合は、再度下記工程を行ってください。



ハーガスNEOは毒性の高いメチレンクロライドを含んでおらず
 生分解性試験－魚類急性毒性試験の基準値を十分満たして
 います。(※別紙:試験報告書記載:試験番号98954)

生分解性試験



OECDテストガイドライン301C
 生分解に伴うBOD(生物化学的酸素要求量)を測定して生分解度を求める

基準値 平均生分解度60%以上であること

魚類急性毒性試験



OECDテストガイドライン203
 ヒメダカに対する96時間半数致死濃度(LC50)を求める

基準値 LC50が10ppmより大きいこと



本 社 〒419-0107 静岡県田方郡函南町平井602-1
 TEL.055-979-4565 FAX.055-978-6150
 E-mail:info@891.co.jp

横浜支店 〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町533
 TEL.045-961-8101